

■佐藤春夫 詩人、小説家。生涯にわたって多面的な才能を示し、文壇の重鎮として門弟多数を育成した。

さとうはるお

大本教・・・1892＝ 和歌山県新宮の生れ。生家は代々の医家。

日清戦争始・1894＝ 2歳：

子規句歌革新1898＝ 6歳：小学校に1年早く入学。

田中正造直訴1901＝ 9歳：

日露戦争始・1904＝12歳：県立新宮中学校に入学。将来の志望を聞かれ、文学者と答える。

日露戦争終・1905＝13歳：

アヲヲ創刊・1908＝16歳：\*(明星)投稿短歌が啄木の選に入る。以後、諸誌に短歌を発表し始める。同人誌(はまゆふ)の表紙画。

伊藤博文暗殺1909＝17歳：\_(スバル)創刊号に短歌掲載。町内有志の文学会で与謝野寛らを知り、その時の言動で学校に脱まれ、

韓国併合・・・1910＝18歳：新宮中学校を卒業。上京して、与謝野寛・晶子夫妻の新詩社同人となり、永井荷風を慕って慶応大学に入学。唯一の同級生であった堀口大學と生涯の友人関係が始まる。

大逆事件判決1911＝19歳：\*(新小説)の懸賞論文に応募し、1等。(スバル){三田文学}に詩や評論を発表して早熟の才を示す。

明治天皇没・1912＝20歳：

大正政変・・・1913＝21歳：尾竹ふくみへの想いに悩み不眠症。この時の詩はのちに「殉情詩集」に収められた。慶応大学予科中退。

第一次大戦始1914＝22歳：女優川路歌子と同棲。

21ヶ条要求・1915＝23歳：二科展に油絵が入選。

ロシア革命・1917＝25歳：大正期に入ると散文への転身をはかり、歌子と別れ、女優米谷香代子と同棲。\_スランプに苦しむ自身の心象風景を描いた「病める薔薇」を発表。二科展に油絵が入選。芥川や谷崎と会い識る。「西班牙犬の家」。

本格政党内閣1918＝26歳：「或る女の幻想」「李太白」「指紋」「お絹とその兄弟」など多くの唯美的な作品を発表し、すでに文壇の流行作家になっていたが、「田園の憂鬱」を発表後、「病める薔薇」はたびたび改稿加筆されて、

ベルリン条約・1919＝27歳：\*「定本・田園の憂鬱」として完成された。実質的な処女作である。

大暴落・・・1920＝28歳：極度の神経衰弱のため帰郷。香代子と別れる。夢と現との境の「美しい町」。「佐藤春夫選集」刊行。

原歌首相暗殺1921＝29歳：\_谷崎潤一郎夫人千代子と恋愛、三角関係の愛憎の中で、詩集「殉情詩集」をまとめる。

水平社結成・1922＝30歳：「南方紀行」「剪られた花」「薔薇と真珠」。

関東大震災・1923＝31歳：「田園の憂鬱」の後日譚「都会の憂鬱」、私小説的な「侘しすぎる」、「我が一九二二年」「玉簪花」。

護憲三派圧勝1924＝32歳：小田中タミを妻とする。「美人」「たびびと」。

円本時代始・1926＝34歳：頹廢的な白昼夢「女誠扇綺譚」、千代子との恋愛始末記「この三つのもの」。「佐藤春夫詩集」刊行。谷崎との友情復活。評論集「退屈読本」。

共産党事件・1928＝36歳：「文芸一夕話」「厭世家の誕生日」。

世界恐慌・・・1929＝37歳：新心理主義の手法をとった「神々の戯れ」。

海軍軍縮条約1930＝38歳：タミと別れ、\_千代子と結婚。「更生記」、機械による人間性の喪失を予見した未来小説「のん・しやらん記録」等々、一作一作主題も方法も異なる作品を発表して多面的な才能を示した。

満州事変・・・1931＝39歳：「心驚れる女」、詩集「魔女」。「佐藤春夫全集」刊行。雑誌を創刊するが、直に休刊。

五一五事件・1932＝40歳：長男誕生。

帝人疑獄事件1934＝42歳：「ぼるとがる文」「閑談半日」。

芥川直木賞始1935＝43歳：\_制定された芥川賞の選考委員となる。しだいに東洋的な文人趣味に傾き、

二二六事件・1936＝44歳：歴史小説「掬水譚」。文化学院文学部長になる。絵本「F O U」。「熊野路」「散人偶記」。

日中戦争始・1937＝45歳：「秦准画舫納涼記」「むささびの冊子」。

健保+総動員1938＝46歳：文学関係として二度中国戦線に派遣される。詩集「東天紅」。

第二次大戦始1939＝47歳：「戦線詩集」。母が逝去。「打出の小槌」。

大政翼賛会・1940＝48歳：「八雲起出雲阿国」、短編集「ひいであ・まいやあ」。慶応義塾の特選塾員になる。

日米開戦・1941＝49歳：「支那雑記」、弟秋雄が死去。

・・・1942＝50歳：父が死去。「日本頌歌」「慵斎雜記」。

創価学会検挙1943＝51歳：マレー、ジャワ方面を視察旅行。「有馬晴信」。

年金+総武装1944＝52歳：帰国。「奉公詩集」。

敗戦・・・1945＝53歳：長野の佐久に疎開。

新憲法公布・1946＝54歳：「佐久の草笛」「日本文芸の道」。

新憲法施行・1947＝55歳：「荷風雜観」。

極東裁判判決1948＝56歳：「別れざる妻に与うる書」「玉笛譜」「自然の童話」「思春期の自画像」。日本芸術院会員。

三大事件・・・1949＝57歳：再開された芥川賞の選考委員となる。「佐藤春夫詩集」「佐藤春夫作品集」刊行。

朝鮮戦争始・1950＝58歳：「戦国佐久」。史論「近代日本文学の展望」。

独立回復・・・1951＝59歳：「女人焚死」。「三田文学」編集委員。作詞した「新宮市歌」が制定される。

メデー事件・1952＝60歳：「近代神仙譚」「日照雨」などに唯美趣味・怪奇趣味の極致を示した。

TV放送始・・・1953＝61歳：「定本佐藤春夫全詩集」により読売文学賞。「与謝野晶子歌集」を編集・刊行。

自衛隊発足・1954＝62歳：「わが小説作法」。

55年体制始・1955＝63歳：伝記小説「晶子曼陀羅」により読売文学賞。

国連加盟・・・1956＝64歳：「白雲去来」「人生の楽事」「小説高村光太郎像」「自選佐藤春夫全集」「私の享楽論」。

なべ底不況・1957＝65歳：「観潮楼附近」「釈迦堂物語」。「小説智恵子抄」などに人間洞察の深さを示した。

インスタントメン1958＝66歳：「前途展く」「わんぱく時代」。「堀口大學詩集」を編集・刊行。

美智子妃・・・1959＝67歳：宮中歌会始に列席。「みだれ髪を読む」「日本の風景」「わが龍之介像」。

安保闘争・・・1960＝68歳：「小説永井荷風伝」「詩の本」、\_文化勲章受章。

イヤイヤ病始・1961＝69歳：「極楽から来た」。「望郷の賦」「窓前花」、主宰誌を創刊するが、直に廃刊。

全国総合計画1962＝70歳：「美の世界」。

TV宇宙中継始1963＝71歳：「詩文半世紀」「美女日本史」「愛の世界」「受難華」。「佐藤春夫芸論集」刊行。

東京リビッガ1964＝72歳：「光の帯」「能火野人十七音詩抄」。\*心筋梗塞のため自邸で没した。

新潮日本文学アルバム、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、